



この挑戦が、未来となる。

ちゅうぎんフィナンシャルグループ

NEWS RELEASE



中国銀行

令和7年3月27日

株式会社 中国銀行



公益財団法人大原芸術財団のミュージアム債の引受けについて

中国銀行（岡山市北区丸の内一丁目15番20号 頭取 加藤 貞則）では、4月3日（木）に、大原美術館などを運営する公益財団法人大原芸術財団の「ミュージアム債（疑似私募債（※））」の総額引受けをおこないます。

本ミュージアム債の資金は、「倉敷市企業版ふるさと納税」による支援金とあわせて令和7年4月3日にオープンする児島虎次郎記念館の改装費に充てられます。公益財団法人が発行する疑似私募債の引受けは当行で初めての取組みであり、今後も金融サービスを通じて、地域の文化芸術振興への貢献をめざします。

※疑似私募債とは

公益財団法人は、金融商品取引法上の私募債（有価証券）を発行することができません。疑似私募債は社債募集の形式により証拠証券（借入金）を発行することで疑似的に私募債の発行を模した資金調達手法です。

地域が誇る文化資源に対する印象的な取組みとして、この疑似私募債について「ミュージアム債」という名称を付けました。

【ミュージアム債および公益財団法人の概要】

- ・名 称 : 公益財団法人大原芸術財団 おおはらげいじゆつぎだん 第1回ミュージアム債
- ・所 在 地 : 倉敷市中央一丁目1番15号
- ・代表理事 : 大原 おおはら あかね
- ・事業内容 : 大原美術館などの運営
- ・発 行 額 : 100百万円
- ・発 行 日 : 令和7年4月3日（木）
- ・発行期間 : 10年
- ・返済方法 : 定時償還（半年毎分割償還）
- ・資金使途 : 設備資金（児島虎次郎記念館改装資金）

【公益財団法人大原芸術財団のコメント】

大原芸術財団は、大原芸術研究所、大原美術館、倉敷考古館の運営と芸術文化の研究に情熱を注いでいます。

中国銀行さまと当財団にとって初めて試みとなる本取組みは、単なる資金調達にとどまらず、ミュージアムと金融機関が協力することで、文化・芸術機関の持続可能な運営を支援する新しい資金調達モデルとしての可能性を持っていると考えます。今後、このような資金調達モデルがほかの文化・芸術機関においても活用されることを期待します。

【児島虎次郎記念館について】



画家・児島虎次郎は、実業家・大原孫三郎の支援を受けてヨーロッパに留学し、「日本で洋画を学ぶ人々のために本物の名画を」という思いで後の大原美術館の礎となるコレクションを収集しました。児島虎次郎記念館では、日本国内だけでなくフランスでも高い評価を受けた児島虎次郎の絵画と、彼が収集したヨーロッパ文化の源泉ともいえる古代エジプト・西アジアの美術品を展示しています。

また、新しくオープンする児島虎次郎記念館の建物は、大原美術館本館を手掛けた薬師寺主計が設計し、大正11年に旧第一合同銀行（現・中国銀行）倉敷支店として竣工したものです。近年まで中国銀行倉敷本町出張所として営業、平成26年に耐震補強工事をおこなった後、平成28年に大原美術館に寄贈しています。

【寄附について】

本ミュージアム債発行にあたり、中国銀行では発行手数料の一部を、困難を抱える子どもたちの支援をおこなうKOTOMO基金に寄附することといたしました。後日、この取組みにともなう寄贈式を児島虎次郎記念館にて開催予定です。

KOTOMO 基金ホームページ <https://kotomofund.jp>

以 上